

## 情緒障害児短期治療施設入所児童の特徴および提供されるケア内容の実態

○国立障害者リハビリテーションセンター研究所 大冨賀 政昭 (6668)

筒井 孝子 (国立保健医療科学院 1486) 東野 定律 (静岡県立大学・4467)

山縣 文治 (大阪市立大学大学院・1204)

情緒障害児短期治療施設, タイムスタディ調査, 小規模グループケア

### 1. 研究目的

情緒障害児短期治療施設(以下、情短施設)は、児童福祉法第45条の5によると「情緒障害児短期治療施設は、軽度の情緒障害を有する児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、その情緒障害を治し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設」とされ、治療という言葉が冠された施設である。

このため、この施設では児童に対する心理的な援助を目的とし、入所や通所の機能を持つ施設として、他の社会的養護施設と比較すると生活支援を担う職員のほかに心理療法を担当する職員や看護師、医師(精神科医もしくは小児科医)といった多様な専門職種の職員が配置されている。

このため、情短施設では、医療的な介入と生活援助を円滑にすすめることを目的として、医師、看護師、心理専門職、生活支援を担う職員といった他職種の協働を前提としたケアを提供するシステムが機能している。しかしながら、こういった多職種連携のケア提供の困難さは知られており、医療機関でさえも、チーム医療や他職種連携の実践については、十分とはいえない現状が報告されているところである。

このように情短施設は、他の社会的養護施設と異なり、設置されたのが比較的、新しいこともあり、他の社会的養護施設と入所児童の属性はどのように異なっているのか、ケアの内容は、どのように異なっているのか等、これまで十分には明らかにされてこなかった。

そこで本研究では、情短施設の入所児童の特徴を明らかにすると共に、現在、情短施設で提供されているケア内容を詳細に把握するために、他計式1分間タイムスタディ調査法で入手したデータを用いて、ケア体制別にケア内容・ケア時間を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

情短施設、児童養護施設、児童自立支援施設入所児童の基本属性や状態に関わるアセスメントに係る項目を比較し、情短施設入所児童の特徴を明らかにした上で情短施設のケア内容やその提供時間を把握した。具体的には、ケア内容別時間の分析は、他計式1分間タイムスタディ法を用いて収集されたデータを用い、ケア内容別に記述統計を行った。さらに情短施設におけるケア提供体制の典型として、大舎制、小規模グループケア有(以下、小規模G)に分類し、これらの施設で提供されたケア時間の記述統計を実施した。

### 3. 倫理的配慮

本研究計画は、国立保健医療科学院に設置されている倫理審査委員会の認証を得た（NIPH-TRN#08003）。

### 4. 研究結果

（1）情短施設と児童養護施設、児童自立支援施設の入所児童の障害の種類とその有無、障害による養育困難が発生している割合

情短施設と児童養護施設、児童自立支援施設の入所児童における障害の有無については、身体的な疾患とこれに伴う障害は、情短施設が 29.6%と最も高く、続いて児童養護施設 22.6%、児童自立支援施設 15.0%と示された。また、精神障害がある児童は、情短施設が 70.2%と顕著に高く、続いて児童自立支援施設 43.9%、児童養護施設 20.4%であった。

（2）情短施設で提供されていたケア内容別提供時間

児童一人に提供されていたケア時間は、平均 435.1 分（標準偏差 225.6）であった。提供されていたケア内容別に時間をみると、「児童に直接関わらない業務」が平均 215.2 分（標準偏差 150.6）で全提供時間の 49.5%を占め、最も長かった。次いで、「身の回りの世話」が 118.6 分（27.3%）、続いて、「愛着関連・コミュニケーション」65.7 分（15.1%）、「保健・医療的業務」13.4 分（3.1%）と続いていた。

（3）ケア形態別情短施設において提供されたケア内容・ケア時間

ケア形態別に職員によって児童に提供された総ケア時間の平均値は、大舎制 379.5 分、小規模 G では 480.5 分であったが統計的な有意差はなかった。大分類別には、ケア提供体制別の平均提供時間を比較した結果、統計的に有意な差が示されたのは、「身の回りの世話」、「保健医療的業務」の 2 分類であった。

（4）結果のまとめおよび考察

情短施設は、他の社会的養護施設と比較すると精神障害による養育困難度を有する児童の割合が高く、身体疾患・障害の割合も高かった。今回、タイムスタディ調査を実施した情短施設は、とくに精神科通院を要する児童が多く、情緒・行動上の問題示す要ケア度得点が全国の情短施設の平均よりも有意に高かった。具体的な問題行動の項目としても「物質使用」、「自傷行為」、「集団不適応」、「睡眠問題」といった症状が発現している割合が高いことが示された。

情短施設で小規模 G ありのケア体制では、大舎・中舎制よりも「身の回りの世話」に関するケア提供時間が長かったが、これは小規模 G という体制のほうが、職員との係わりが日常的に密接になっていることが関連しているものと推察された。しかし、ケア提供体制別の差異が児童にどのような影響を与えているかについては、今後の課題である。